

富津市創生会議 会議録

1 会議の名称	富津市創生会議
2 開催日時	令和6年12月12日(木) 午前9時30分～午前10時30分
3 開催場所	富津市役所5階 502・503 会議室
4 審議等事項	富津市人口ビジョン2050(案)及び第3期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について
5 出席者名	富津市創生会議委員(7名) 青木 和彦、梅内 泉、石井 喜美子、岩井 允、 岡田 亮介、小泉 晴信、新行内 崇彰 事務局(10名) 市長 高橋 恭市、副市長 小泉 義行、 企画政策部長 石井 太、企画政策部次長 佐藤 慎也、 企画課長 秦野 憲一、企画課企画係長 牧野 圭吾、 企画課副主査 大野 恵、企画課副主査 若松 拓馬、 企画課主事 神子 裕美、企画課主事 鈴木 彩里奈 事業担当課(39名)
6 公開又は非公開の別	公 開 ・ 一部公開 ・ 非 公 開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当 (理由)
8 傍聴人数	1名(定員5名)
9 所管課	企画政策部企画課企画係 電話 0439-80-1223
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

富津市創生会議 会議録

発言者	発言内容
事務局	委員の皆様方におかれましては、本日はご多用のところお集まりいただき、誠にありがとうございます。また、会議資料の送付が直前になり申し訳ございませんでした。 まず、本日の会議資料の確認をさせていただきます。着座にて失礼いたします。 机上配布させていただいた「会議次第」、「席次表」、「市出席者一覧表」、資料1 富津市人口ビジョン2050（案）の概要、資料2 富津市人口ビジョン2050（案）、資料3 第3期総合戦略（素案）と（案）の対照表、資料4 第3期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）となります。以上が本日の会議資料でございます。資料はお揃いでしょうか。
事務局	1 開会 それでは、ただいまから、富津市創生会議を開会いたします。 はじめに、本日の委員の出席状況を報告させていただきます。11名の委員のうち、小嶋委員、笹生委員、島野委員から欠席のご連絡をいただいております。また、新行内委員、鈴木委員におかれましては、到着が遅れているようでございます。従いまして、現在の出席者は6名となっておりますので、富津市創生会議設置要綱第6条第2項の規定により、半数以上のご出席をいただいておりますので、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。 続きまして、会議の公開についてですが、本日1名の傍聴者がおりますことをここで報告させていただきます。 また、会議録作成のため録音させていただきますのでご了承ください。 なお、質疑応答の際は着座にてマイクをご使用いただき、係員へ受け渡しいただきますようお願いいたします。 それでは、開会にあたりまして高橋市長からご挨拶申し上げます。
高橋市長	2 市長挨拶 （市長挨拶）
事務局	続きまして、青木会長からご挨拶をお願いいたします。
青木会長	3 会長挨拶 （会長挨拶）
事務局	ありがとうございました。

それでは、本日の会議の趣旨及び議事進行につきましてご説明申し上げます。

本日の会議は、「富津市人口ビジョン 2050（案）及び第3期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について」を議題として挙げさせていただきます。資料1から4を用い、富津市人口ビジョン 2050（案）及び第3期総合戦略（案）につきまして、委員の皆様方からご意見等をいただき、今後作成する完成版に反映させるものでございます。

次に、議事進行ですが、富津市人口ビジョン 2050（案）及び第3期総合戦略（案）の全体を通して議論していただきたいと思います。

会議には事業担当課職員も出席しておりますので、委員の皆様方からのご質問等にお答えし、また意見交換等をさせていただきます。

本日の会議終了時刻は、11時頃を予定しております。

議論の進行状況により前後するかと思いますが、どうぞ宜しくお願いいたします。

会議終了後、休憩を挟みまして、委員の皆様には、隣の会議室に移動していただき、人口ビジョンと第3期総合戦略の表紙に掲載する図画の選定を予定しております。

それでは、ここからは、富津市創生会議設置要綱第6条第1項により、会長に議長となつていただき、進行をお願いします。

青木会長、よろしくお願いします。

4 会議録署名委員の指名

青木会長

まず初めに、本日の会議録署名委員を指名させていただきます。小泉委員と石井委員にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

5 議題 富津市人口ビジョン 2050（案）及び第3期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

青木会長

それでは議題に入ります。議題「富津市人口ビジョン 2050（案）及び第3期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）」について、事務局の説明を求めます。

事務局

議題の富津市人口ビジョン 2050（案）及び第3期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について、ご説明いたします。

はじめに、富津市人口ビジョン 2050（案）について、前回お示ししたもののから、表記を見やすくした等の軽微な変更を除き、更新又は修正をした箇所について、主にご説明いたします。

資料1をご覧ください。

資料の1ページ及び2ページは、国立社会保障・人口問題研究所、いわゆる社人研の最新の推計、国勢調査等に基づき、本市の人口の動向についてまとめたものでございます。

まず、1ページの右上、合計特殊出生率の推移についてですが、2023年の数値を追加いたしました。

次に、同じく 1 ページの右下、近隣自治体・千葉県との配偶関係の年齢階層比較についてですが、本市以外の、木更津市、君津市及び袖ヶ浦市の近隣 3 市並びに千葉県に係る帯グラフに関しまして、各年齢層の女性の帯グラフを誤った数値で掲載していたことが、今般の資料作成を行っている際に判明いたしましたので、この帯グラフにつきましては、本資料では正しいものに修正いたしました。

この場でお詫び申し上げます。大変申し訳ございませんでした。

内容といたしましては、本市は、近隣 3 市や千葉県と比較して、男女ともに相対的に未婚率が高いという結果が示されております。

また、2 ページの右側、「地域間の移動」について、今回は令和 3・4 年の数値を記載しておりましたが、令和 4・5 年の数値に更新しております。

3 ページをご覧ください。

「人口の将来展望」目指すべき将来の方向として、人口減少の主な要因となっている出生数の減少、若い世代の転出超過への対策について、「出生率の向上」、「転出抑制」、「転入促進」につながる各種政策を実行していくことで人口減少の抑制を目指すこととしております。

左側の下の表には、市独自推計の将来仮定値等を記載し、右側に推計結果のグラフ等を記載しております。

前回お示ししたもののからの変更点については、次の 4 ページにてご説明させていただきますので、4 ページをご覧ください。

左側が前回お示ししたものの、右側が変更後の設定となります。

まず、前回数値について、各種アンケート調査の結果を参考にして算出し、出生率については、2050 年に市民の希望出生率 1.65 となるように出生率を段階的に上昇させること、転入促進については、国勢調査の移動人口の転入数をベースに 15%増加させること、転出抑制については、転出超過が顕著な主に 20 歳代及び 30 歳代の転出率を 2025 年から 5 年ごとに 10%ずつ抑制することとし、2050 年には、社人研推計準拠の将来人口 2 万 4 千 287 人を、約 3 千人減少抑制し、人口 2 万 7 千人を目指すとしておりました。

今申し上げた将来仮定値は、本市の各種事業と具体的に関連させて導き出したものではなかったことから、これらの将来仮定値の設定について再検討いたしました。具体的には、各種アンケート調査の結果だけに着目するのではなく、出生数の向上、転入の促進又は転出の抑制につながると考えられる人口減少抑制策となり得る事業や施策について、全庁的に照会を行い、見込まれる効果の有無や程度を検討いたしました。

その結果、右側の表中、市独自推計の将来仮定値として、合計特殊出生率については、2050 年に 1.37 となるよう段階的に引き上げること、転入促進については、各年齢層の転入率を 2025 年から 5 年間で 5%増加させ、その転入率を継続すること、転出抑制については、転出超過が顕著な主に 20 歳代及び 30 歳代の転出率を 2025 年から 5 年ごとに 9%ずつ抑制することとし、右下にあるとおり、2050 年に人口 2 万 5 千人を目指すことといたしました。

なお、今申し上げた将来仮定値を算出するに当たって考慮した、人口減少抑制につながる可能性のある各種事業についてですが、出生数向上については結婚新生活支援事業のほか子育て支援に関する事業等、転入促進については移住・定住を促進する事業等、転出抑制について高速バス通学費の補助を行う事業等の実施を想定し、各事業の過去の実績や現在の実施状況、各種アンケート調査の結果等に鑑み、見込める効果を検討いたしました。

一方で、今後実施を予定している各事業は通常、社会環境・経済情勢の影響を受け、市民の方々それぞれの意向や気持ちも一様ではないことから、例えば、「ある特定の事業を行えば、転入が何人増える」という単純計算はきわめて難しく、また、事業によっては、その内容が、本市で既に暮らしている方にとっては今後も住み続けたいと思う理由になると同時に、市外から本市に転入しようとする方にとっては動機の一つにもなり得るため、見込む効果も一様ではありません。

以上の事情を総合的に勘案し、目標とする将来推計値及び、将来人口を設定いたしました。

次に、資料2についてご説明します。1枚めくっていただき、目次をご覧ください。

本資料は、1ページの前半で基本的な考え方を示し、1ページの後半から11ページまで人口の現状分析、12ページ以降で人口の将来展望を示しております。

12ページから16ページには、各種アンケート結果の抜粋、17ページに目指すべき将来の方向、最後に人口の将来展望という構成としており、先ほど資料1の概要で説明いたしました内容の詳細を記載しております。富津市人口ビジョン2050（案）に関する説明は、以上となります。

次に、第3期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について、ご説明いたします。

第3期総合戦略につきましては、前回会議でお示しした第3期総合戦略の素案から、字句の修正等の軽微なものを除いた主な変更箇所について、ご説明いたします。

それでは、資料3の1ページをご覧ください。

資料3は、左側に第3期総合戦略の素案を記載し、右側に案を記載しており、素案から案への変更箇所は、黄色のラインマーカーを引いております。

はじめに、「2 第3期総合戦略の位置づけ」の「富津市みらい構想との関係」、上から3行目をご覧ください。

左側の素案では、「2050年に人口27千人」としておりましたが、右側の案では、「2050年に人口25千人」と変更いたしました。同じ変更は、今回お示しする案の中で、他に4か所ございます。

次に、3ページの最上部、右側の、「人口の将来展望」をご覧ください。

先ほど、富津市人口ビジョン2050（案）に関する説明で申し上げたとおり、合計特殊出生率については、2050年に1.37になるよう段階的に引き上げることとし、転出抑制については、転出超過が顕著な主に20歳代及び30歳代の転出率を2025年から5年ごとに9%ずつ抑制すること

とし、そして、転入促進については、各年齢層の転入率を 2025 年から 5 年間で 5 %増加させ、その転入率を継続することとし、2050 年に人口 25 千人を目指します。掲載したグラフは、富津市人口ビジョン 2050（案）から転記したものになります。

5 ページ、「6 DXの推進」をご覧ください。

左側の素案では、図の下に何も記載しておりませんでした。右側の案では、後半に記載した「デジタル技術を活用した取組」との関連を分かりやすく示すため、※（こめじるし）で、「デジタル技術を活用した具体的な取組は、25 ページ以降をご覧ください。」という一行を追加いたしました。

7 ページをご覧ください。

基本目標 1 の数値目標や、数値目標の設定の考え方について、主に、割合（%）の記載部分を変更しております。

その理由ですが、各割合（%）の出典元である「2023 年度に実施した市民アンケート調査」の回答率を算出する際に、「その設問に何も回答しなかった方」も含めて計算をしてしまっていた、という誤りでございました。

左側の素案では、その誤った母数を前提として各割合（%）を計算しておりましたが、右側の案では、設問に回答しなかった方はその母数から除き、正しい母数で再計算した割合（%）を改めて掲載いたしました。他のページの割合（%）の修正に関しても、同様でございます。

9 ページ、施策 3 の目標値をご覧ください。

「ふつつ子育て LINE 登録者数」について、左側の素案では、2028 年度の目標値を 800 件としておりましたが、10 月に実施した富津市創生会議における委員からの指摘を受け、担当課において再検討した結果、右側の案では、目標値を 200 人引き上げ、1,000 人に変更いたしました。

10 ページ、施策 5 の目標値をご覧ください。

「地域子ども見守り隊活動者数」について、左側の素案では、2023 年度の実績が調査中であったことから空欄としておりましたが、調査が完了いたしましたので、右側の案では、2023 年度の実績を 187 人と記載いたしました。

また、2028 年度の目標値については、右側の案で記載のとおり、2023 年度の実績と同じ人数である 187 人を記載しております。

この理由についてですが、子どもを含めた地域の人口が減少し、学校再配置を検討していることに加え、活動者の高齢化もあり、活動者の減少が見込まれる一方、子どもたちの登下校等における安全確保の必要性や重要性が今後も変わるわけではないため、見込まれる活動者の減少をカバーできる新たな活動者のなり手を確保して、地域における子どもの見守り体制を維持していくことを目指し、現在と同じ人数を 2028 年度の目標としたものであります。

次に、同じ 10 ページの、市民ができること、をご覧ください。

左側の素案では、「婚活アドバイザーの存在を広める」と記載しておりましたが、右側の案においては、趣旨がより分かりやすく伝わるよう、

「婚活をサポートしてくれる人の情報など、婚活に活用できる情報を広める」と変更いたしました。

14 ページ、施策 4 の目標値をご覧ください。

文化祭出演・出展者数ですが、左側の素案では、2024 年度の実績値の記載を予定しておりましたが、現時点で 2024 年度の実績値が確定していないため、右側の案では、2023 年度の実績値として、2,078 人と記載いたしました。

次に、15 ページの上、施策 4 のスポーツフェスタに関する目標値をご覧ください。

左側の素案では、目標値の項目名を「スポーツフェスタ参加者数」と記載しておりましたが、正確には、右側の案のとおり、「スポーツフェスタ参加者延べ人数」であるため、変更いたしました。

また、2024 年度の実績が確定したため、右側の案のとおり、2024 年度の実績を 1,253 人と記載いたしました。なお、2024 年度のスポートフェスタは、新型コロナウイルス感染症流行後初めてとなる開催であり、午後まで開催していた 2018 年度までとは異なり、午前中までの開催として時間が短縮されましたので、それを踏まえた人数となっております。

また、2028 年度の目標値につきまして、左側の素案では、午後までの開催を前提した人数として、2,400 人を目標としておりましたが、2025 年度以降は午前中までの開催を見込んでいることから、右側の案におきましては、午前中までの延べ人数として、1,450 人を目標として設定いたしました。

次に、19 ページ、基本的な施策の方向①をご覧ください。

左側の素案では記載しておりませんでした。右側の案では、「また、働きやすい環境の整備を奨励し、若者や女性の活躍推進を図ります。」と記載いたしました。

これは、次の 20 ページの上部に記載されている「地域・民間ができること」の 3 つ目や 4 つ目の点、「結婚、出産、子育てなど、ワーク・ライフ・バランスに配慮した働きやすい就労の場をつくる」や「勤務場所や時間の制約を少なくして、働き方の自由度を高める」ことに関連して、追加したものであります。

24 ページ、施策 3 の目標値をご覧ください。

「ICT 等新技術を活用したニホンザル対策」の成果を測る指標として、今回、右側の案において、目標項目名を「新技術活用によるニホンザル捕獲延べ群れ数」とし、計画期間の 4 年間で延べ 4 群れを捕獲するという目標値を設定いたしました。

次に、27 ページの「市民向けサービス（市民デジ）」の一番下、公共施設予約の内容をご覧ください。

左側の素案では、「市内の施設予約」とだけ記載しておりましたが、より正確な表記とするため、右側の案のとおり、「市民ふれあい公園、富士見グリーンテニスコート、富津市総合社会体育館、新富運動広場、富津運動広場及び浅間山運動公園に係る有料施設の予約等」と修正いたしました。

	次に、「市民向けサービス（市民デジ）」の続きとして、28 ページをご覧ください。 右側の案の、上から 4 つ目のとおり、国民健康保険・後期高齢者医療制度に関する手続として、短期人間ドック費用助成について、電子申請サービスを活用し、申請をオンラインで行うことができるため、追加いたしました。以上が主な変更点でございます。 資料 4 につきましては、資料 3 で説明いたしました変更点を溶け込ませたものとなっております。 最後に、今後の予定について申し上げます。 本日ご説明いたしました、富津市人口ビジョン 2050（案）及び第 3 期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）につきましては、12 月 17 日に市議会全員協議会で説明したのち、12 月 18 日から来年 1 月 17 日までの 1 か月間、パブリックコメントを実施いたします。 その後、富津市創生会議、市議会全員協議会及びパブリックコメントで頂いたご意見をもとに、富津市人口ビジョン 2050 及び、第 3 期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定いたします。 また、第 3 期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、令和 7 年度当初予算を反映した実行計画を併せて策定いたします。 以上をもちまして、説明を終わります。
青木会長	それでは、質疑応答に入ります。 議題全体を通して議論していただきます。発言される場合は、挙手にてお願いします。 岡田委員お願いいたします。
岡田委員	このような委員をいくつかの自治体から拝命していますが、非常に誠実なプロセスを経て決定していく自治体様だと改めて感じました。ここまで細かく市民の代表者に変更点までお伝えいただけると、非常に感銘を受けました。 説明等に関しては、なるほどとしか言いようがなかったので、私の専門から総合戦略をみていくと、やはり DX の部分はやや控えめかなという印象は受けています。 他の自治体様や県の DX のアドバイザー等をやる中で、やや保守的というか、まだ計画を練っていらっしゃる段階なのかなというふうにお見受けいたします。多分、近隣の自治体も、総合戦略にぶら下がる形で DX 推進計画等を今策定されている自治体さんが多いと思います。もし、富津市でも DX 推進計画、あるいは人材育成計画等について、何かビジョン等ございましたらお聞かせください。
資産経営課	富津市において、DX 推進計画は策定しておりませんが、本市において、毎年度デジタル技術を活用した取り組みに関しまして、市ホームページで、実施予定の事業の公開をしております。 DX 推進計画の策定については、今後の課題として検討させていただきたいと思っております。

青木会長	ありがとうございました。 他にご質問ございませんでしょうか。石井委員お願いいたします。
石井委員	前回の会議から、本当に間もない期間の中でこれほど修正を加えられてえられてご準備いただき、感謝申し上げます。 その中で、やはり人口減少に伴って、諸々の政策が変わってくるんだということを感じたわけですが、人口減少を食い止めるための具体的な結婚の問題、それから人口流出の問題、そして企業等々の仕事関係の問題に直面したときに、どういった事業の施策をされていくかということがこの紙面上で明らかにしていただきましたので、今後市民の1人としてできることをやっていければなというふうな思いで拝聴いたしました。
青木会長	ありがとうございました。他にご質問等ございますか。 では、小泉委員お願いします。
小泉委員	こども食堂に携わっている人間として1つ言わせていただきます。 富津市から市原市の5市でこども食堂のグループあって、そこで話している中で、富津市の政策は、決して他市に劣っていないと思います。 市長はじめ、職員の皆さんの努力はすごく分かりますが、ただ市民の活動という部分においては、やっぱり富津市はちょっと弱いかなと感じています。 袖ケ浦市では、一つの小学校区に4つから5つのこども食堂があって、行政との連携もすごく取れていて、うまく回っていると感じます。富津市も、もう少しこども食堂と行政がうまく連携できればいいなと思います。
青木会長	はい、ご意見ありがとうございます。 他にごございますか。では、副会長お願いします。
梅内副会長	各委員の方かもお話があったように、前回からの短期間で、修正等ご説明いただきまして、本当にわかりやすくご説明ありがとうございます。 私からは、前回10月の会議以降に感じたことをいくつかお話させていただきたいと思います。 1点目は、例年イオンモール富津において、就職フェスを開催しております。事務手続きのお手伝いをさせていただいている中で、地元の企業さん、その参加者の就職説明会ですので企業側の出展の要望を聞くと、例年は出展されていなかった企業さんからも興味を示していただき、数が増えてきています。やはり、人口減少に伴い働き手が少なくなってきた、企業側も新しい仕事の担い手をどんどん確保していかなきゃいけないというのが、全国的な状況だと思います。 富津市でも、そういう状況が起きているということで、新しい若い人たちの就職活動、地元での雇用といったところに、うまく繋がっていけ

ばあまり悲観することもないのかなと感じ、うまく繋がっていくことが重要かなと思っています。

2点目ですが、新しく富津市内で事業を興したいと思っている方のお話を聞くと、創業するにあたって、初期投資に一番負荷がかかっている、事業計画している中で色々な補助金等も活用をしていきたいと思っている方もいます。総合戦略の中にも、創業支援事業と記載いただいていますので、事業を起こす側の人たちの背中を押してくれるような補助金の話などを具体的に記載していただけると富津で事業していくことに、どんどん前向きになってくれるのかなと感じています。

今回の第3期総合戦略も、本当にいろいろ施策を考えていただいて、各課の皆さんのアイデアが詰まっていると思います。

これから重要なのは、こういった点と点を繋いで、本当に実を結ぶ線になっていくという、この情報の連携っていうのも多分重要なかなと思いますので、創生会議の中でも色々意見をさせていただいていますが、市の取り組みがうまく連携して、実を結んでいただければというふうに思っている次第でございます。

青木会長

ありがとうございます。
岩井委員お願いいたします。

岩井委員

第3期総合戦略の17ページ、基本目標3 市の産業、仕事を作るところに関係してくるのかなと思いますが、富津市内で事業を行っておりまして、求人をかけても、なかなか応募が来ないという状況が続いております。そんな中、我々がいち早く新しい人材に入社していただくために、外国人実習生もしくは外国人特定技能という制度を使って、外国籍の方を雇用しております。

当然企業としては、地元の方や新卒者の方を積極的に採用していきたいのですが、地域的な理由であったり、皆さんもいろいろな考えがある中で、選ばれる企業になっていないのかと正直感じております。そのため、我々中小企業としては、いち早く人材を求めるために、少々コストがかかっている、確実な外国人実習生もしくは特定技能生というところで、落ち着いているのが現状です。

ちなみに、私の会社では、1年度において、3人位の転出入が発生しています。この事例を考えると、いろいろなところに外国人実習生や外国籍の方々の人口への影響というのも、少しずつ視野に入れていかねばならないのかなと感じております。

我々だけでも3名の転出入があるわけですから、富津市内の企業が今後外国籍の方々を雇用するにあたり、人数がどんどん増加して、それが与える影響がどんどん反映されてくるのかと思います。そうしたとき、富津市として人口を増加させるというなかで、多少誤差が出てくるのかなと思い、その数字をどのように評価していくべきなのかなということを考えていかなければならないのかと感じています。

働きやすい場所という点においては、実は特定技能生であっても外国籍の方々を入社させて、寮を提供して住まわせなければいけません。

	正直、富津市ではアパートの数も不足していて、なかなか外国籍の方に対しての理解度が高くないので、君津市の方にアパートを借りています。そこにも、何かしらお考えいただけたらというところでもあります。 先ほども申しましたとおり、私達としては、地元の企業として地元の方々を雇用したいとは思いますが、なかなか人材不足は切羽詰まった問題でございますので、外国籍の雇用で致し方ないというところもご理解いただいてまともりませんが、意見とさせていただきます。
青木会長	はい、ありがとうございました。 続きまして、新行内委員お願いいたします。
新行内委員	富津市の人口ビジョンと総合戦略を拝見させていただきまして、私も創生会議の委員をやらせていただくなかで、初めて行政のお仕事を見る機会をいただきましたが、やはり市民の皆さんの利便性というところで、本当に多岐に渡って色々な施策をしているということを改めて感じました。今回の案につきましても、非常に素晴らしく多岐に渡って、一つ一つきめ細かく決められているというところで、大変ご苦労なさっているなというところを感心いたしました。 そういった中で、市民アンケート調査等で色々な結果が出ていますが、やはり市民が不満に感じている交通の便、買い物をする場所などに対して、力を入れていく必要があると感じました。 また、このデジタル技術を活用した取り組みの中で、27 ページの定住促進事業のプロモーション映像を作成し、デジタルサイネージや SNS で情報発信を行うということがありますが、私も地元の金融機関として、何かお役に立てるようなことがないかというところで、お話をさせていただきたいと思います。 弊行においても、広告事業を行っております。具体的に言うと、ATM の画面に、企業様が作ったプロモーション映像を流すといったこともやっています。そういった一環の中で、例えば、移住定住促進ということであると、一番影響が大きいというのは、やはり都内になるのかなと思いますが、弊行の都内の支店の一部で、デジタルサイネージといった比較的大画面で、広告を出すことができる場所がありますので、例えば富津市様のプロモーション映像を流すことなどで、もしかしたらお手伝いできるのかなとも感じました。
青木会長	はい、ありがとうございます。 岡田委員お願いいたします。
岡田委員	人口ビジョンというのはビジョンであり、最後に将来展望となっていて、数値目標 25 千人という数値が示されていますが、ビジョンとか展望というのはある種、予測という意味なのかなと思う一方で、目標とも取れると思っています。

今回、前回に比べて、目標数値は下がっていますが、それでも社人研の数字に比べれば上回っています。

決して簡単ではないチャレンジングな設定ビジョンと認識しております。そう考えると、定点で追いかけていって、政策をローリングしていくことになるのかなと思いますが、この数値を目標として追っかけるための政策は多くの部署にまたがっている上に、一対一でこの政策やったら何人増えますよねとか、こんな政策やったら何人減りますといった、一対一での綺麗な相関が生まれないので、部署がまたがった上に、結果との結びつきが見えにくいので、とても難しいと思いますが、やはり企画的なセクションで責任を持ってこの数字を追いかけていくという認識で合っているでしょうか。

青木会長

はい、ありがとうございます。
今のご質問について、担当の方お願いします。

事務局

人口ビジョンについては、今後こういった数値を目標に取り組んでいきたいと考えております。その中で、途中の KPI や目標値は、人口自体もそうですが、総合戦略の中で、各種事業で定めた目標値や、アンケート結果により計っていききたいと考えております。

青木会長

はい、ありがとうございます。
他にご質問等ございませんか。岩井委員お願いします。

岩井委員

この総合戦略(案)の中で、行政の取り組み、地域・民間ができること、市民ができることをしっかりと議論を重ねて、それぞれに担いがあるのかなと知ることができました。

これを知ること、自分自身も見方がとても変わってくところもありましたし、良い気づきが得られたと思っております。

その中で、それぞれを分けられて目標値を設定されていますが、これは、行政の取り組みだけで達成できるのではないと思っています。そのため、地域・民間ができること、市民ができることというものもしっかりと分けて、全体的に良くしていこうという取り組みをされていくための目標値なのだと認識していますが、その認識で良いのでしょうか。

事務局

はい。そのとおりです。

岩井委員

ありがとうございます。

では、この地域・民間ができること、市民ができることに対して、正直私も、この創生会議に参加するまではわからなかったのですが、行政の取り組みの一つとして、地域・民間ができることや、市民ができることというものを配信していかないと市民の皆さんは気づかないのではないかと感じております。その点においては、どのような取り組みを想定されているのかについて教えていただいてもよろしいですか。

青木会長	それでは、企画課お願いします。
事務局	地域・民間ができること、市民ができることについては、それぞれの方々にご協力をいただく必要があると感じております。 各事業の中で、そういった方とのお付き合いがある中で、情報交換をしていくことが必要かなと考えております。どれだけ周知できるかというところは、今後の課題だと考えております。
岩井委員	はい、ありがとうございます。 今後の課題とおっしゃっていただけたので、とても心強いなと思いました。先ほども申しましたとおり、私もいろいろな気づきがあつてご協力できることが多々ありましたので、そういう市民が1人でも増えるようによろしくお願いいたします。
青木会長	他にご質問ご意見ございますか。 それでは、私から1つ意見ですけども、本当に素晴らしい計画を作っていたいただいております。 実際、各項目の色々な事業が出てきて、今までの継続事業もたくさんあると思いますが、新たな事業の内容が目標値を達成するために、非常に重要になってくると思います。 その事業について、次の3月の会議で細かい内容が出てくるのかと思っていますが、そのような解釈でよろしいでしょうか。
事務局	総合戦略（案）に掲げた事業内容につきましては、実行計画という形でまとめまして、皆様にお示しする予定でおります。
青木会長	はい、ありがとうございます。
青木会長	今後、細かい実行計画が出てくると、委員の皆さんからの意見もたくさん出てくると思いますので、ぜひよろしくお願いします。 他にご意見・ご質問等ないようですので、以上で、議題「富津市人口ビジョン2050（案）及び第3期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）」は終了いたします。 本日の議事の内容につきましては、会議録の確定をもって取りまとめさせていただきますので、ご了承お願いいたします。 円滑な議事進行にご協力を頂き誠にありがとうございました。 それでは、進行を事務局にお返しします。 6 閉会
事務局	ありがとうございました。 閉会に当たりまして、小泉副市長からご挨拶申し上げます。
小泉副市長	（副市長挨拶）

事務局

以上をもちまして、富津市創生会議を終了いたします。
次回の会議は、3月下旬を予定しております。
あらためて、通知を送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。
ありがとうございました。

(終了時刻 午前10時30分)

以上